

目次	1 頁	会長挨拶	2 頁	専務理事挨拶
	3 頁	理事会議事録	5 頁	代議員議事録
	6 頁	総会議事録	7 頁	鳥羽パールレース



新たな組織へ向けて

会長 戸田邦司

春一番も吹いて、会員の皆様も今年の活動の準備に忙しい日々をお過ごしのことと思います。

外洋帆走協会も、かねてからの課題でありました日本ヨット協会との合併が実現し、五十年にも及ぶ活動の歴史を閉じ、新たな組織であります日本セーリング連盟の事業の大きな柱の一つとしてその事業を継続していくことになりました。

振り返りますと戦後間もなく在日米軍人なども参加して Cruising Club of Japan として活動を開始し、その後 Nippon Ocean Racing Club として活動が拡大し、1964 年に運輸省所管の社団法人日本外洋帆走協会となって公益法人としての基盤を確立し益々活発な活動を続けて参りました。

その活動に翳りが見えはじめたのは、バブルの崩壊の時期でもありましたが、このことは偶然の一致ではなかったと思います。本部と関東支部の関係、本部事業と支部事業の在りかた、序々に進行していた財政破綻等々を同時にしかも急いで解決しなければならなかったのです。もし、これらの問題を放置すれば協会は間違いなく再建不能となっていたと思います。

そのような時期に協会の執行部を預かることになりました。私自身 1960 年からの会員ですから協会に対する思い入れも人並以上ではありましたが、ことは相当の決断を要し、その決断のためには極めてクールな判断が必要でした。そこに並行して日本ヨット協会との合併問題が進んでいったのです。日本ヨット協会とは実に長い論争がありましたが、その殆どは具体的な解決策のためのものではなく、双方がどのようにして納得するかといったことを恰も神学論争のように続けていたように思われます。

幸いなことに、私と苦楽を共にした執行部の面々は熱心な現実主義者でした。彼等の努力が全ての問題の解決を可能にしたのです。

これからの時代は各地にそれぞれの地域の特徴あるヨットクラブが、自由な発想により活動を展開してゆくことになるでしょう。新たな連盟は、できるだけ干渉することなしにそれらの活動を支えてゆくことに盡きると思います。

会員の皆様も大きく拡大した活動分野を視野に入れ、より大きな可能性を求めて大いに活躍されますことを期待してやみません。

これまでご協力いただきました皆様に深く感謝いたしますとともにこれからの新しい連盟の活動にもご支援ご協力下さいますよう切にお願い申し上げまして最後の挨拶とさせていただきます。

社団法人日本外洋帆走協会(NORC)と 財団法人日本ヨット協会(JYA)統合の発足を迎えるにあたって

専務理事 尾島裕太郎

4月1日社団法人日本外洋帆走協会と財団法人日本ヨット協会統合の発足を迎えるにあたり、心引き締まるものがあります。

昭和39年の社団法人日本外洋帆走協会設立趣意書を紐解くと、社団法人日本外洋帆走協会は財団法人日本ヨット協会と話し合いを継続する必要があるとかけられております。

NORC発足前よりすでに統合の話し合いがもたれ、統合の必要があるということが確認できました。趣意書には、先輩方の社団法人設立に夢をかけ、奔走なさった様子がありありと描かれております。

日本ヨット会統合組織委員会の席上、NORC側JYA側各委員は真剣に、夫々の側に遺漏のない条件で統合合意書と寄付

行為作成、運用規則作成手順などを詰めてまいりました。しかし統合後数年経て、統合の結果にどのような評価が出てくるか、委員会の席についたものとしては待たれます。

JSAFは、ヨット乗りの集合体として一気に手の数が増えました。この手の数をどのように活かしていくか、今後の理事の働きに掛かっております。今までのNORCやJYAの活動に生涯スポーツの分野が加わりました。JSAFに加盟している団体の会員がJSAFの評議員を選び、評議員が理事を承認する構図は、従来のNORCとさほど変わりません。評議員選出年は、ひとえに参加団体会員が組織活動に興味を持って投票いただけるよう願う次第です。

『ありがとうNORC、さようならオフショア誌』

会報小委員会 服部一良

文をつづるとき、中身が先でそれから題名に悩むのが当方のパターンです。ところが今回、これしかないというタイトルがスラスラと浮かんで、今度はそれからが困りました。

理由は大きく二つ。書きたいことが沢山あって整理ができないのと私的な感慨が頻りに顔を出してしまいそうだからです。したがって以下は、貴重な紙面を費やすのが畏れ多いのですが、NORCが社団法人に衣更えた1964年に入会という偶然のタイミングに免じてお話しをいただける、勝手に決めて進めます。

人生は後悔の積み重ねです。志望の学校、希望の職種と就職先、それに伴侶の選択など、全部正しかったという人は嘘つきに決まっています。でもディンギーの数年間を経てNORCの門を叩くに至ったのは、当方にしては数少ない大当たりの選択でした。その最大な理由は、NORCのおかげで広がった多くの人々との繋がりで。

当方がまだビギナーの頃、会社の上司にそっくりなシニアのクルーが居られましたが、海の上でいざとなれば連携した作業を知らない間に終えていて、目から鱗を覚えたことがあります。また日頃は、それなりのポーズを崩さないオーナーが、苦労が多かったロングオフショアのフィニッシュ直後に、好成績を知って、顔面を一気に紅潮させてクルー全員に抱き付いたのも、昨日のように甦ります。これらは

陸上の日常では知り得ない、社会的な地位とか時代の相違とかの垣根を取り払ったチームワークの、その比類のない素晴らしさを、はっきりと自覚させるに充分でした。以後、自艇での参加はもちろん、ごく少数ですが幾人かのオーナーの知遇を得ることができて、レースシーンの共有は海外まで広がり、人間関係を拡大して今日に至っています。

しかしながら多彩な人材を誇るNORCも組織となると別の問題が生じているのも確かです。メンバー全員が顔見知りの頃はともかく、世帯が大きくなれば当然に管理が必要になって、必然的に管理する側と管理される側の立場が生まれます。話は飛躍しますが、オリンピックのスキャンダルの度に蒸し返される、オリンピックは競技者のものかIOCのものかの論議に似て、NORCのレースにしても当方が帆走委員を任じられていた十十年前から、レースはいったい誰のものが必ずしも明確にはなっていません。レースは参加する競技者のものだというセオリーが確立されていれば、またまた話が飛躍しますが、JGYR92の裁判沙汰もフォローの形が違って経過は変わっていたかも知れません。またNORCへの登録艇数が全体の割未満なもの依然として古くて新しい問題です。新たに発足する組織が、競技団体なのかユーザー団体なのか、まだ具体的なところは見えていませんが、NORCがついに果たせなかった、レースには関心を寄せずに悠々と遊ぶ層

への対処も、新しい組織に渡された大きな課題といえます。

機関誌オフショアへは、個人的なノスタルジアが先立ちます。オフショア誌の前身「NORCだよ」の時代から「コミティ報告」を寄稿していましたが、80年代の初頭から現在まで、連続ではありませんが、通算十数年間、編集スタッフを勤めさせて頂きました。この間、結構激論を交わしたり、座談会のテープ起こしに悪戦苦闘したり、JGYR92に絡む毎号のレポートにそれなりの消耗を覚えたりと、様々が甦りますが、いまとなっては楽しい思い出です。ですが直接に担当したこの一年余、組織統合をめぐる一番大事な土壇場で、紙面に限られて思うような活性化が果たせなかったのが、辛く残ります。NORCの将来の選択に、一部の会員各位に誤解を残したのは、当方の力不足にも一端の責任があります。

ともあれ旧世代の一員として負債を引き継がれる新世代の各位に、申し訳なく思います。

最後に、当方にとって、実の社会よりもはるかに多い教訓をいただいた人々の輪を、結果として構築されてきたNORCの諸先輩各位に「ありがとう」を重ね、一時期、クリエイティブの苦楽をともにしたオフショア誌へも、再度、挨拶を送ります。「さようなら」。

1999年度第2回理事会議事録

1日 時 1999年2月6日(土) 13:30～22:00

2場所 泉ビル1F 会議室

3出席者 理事30名中 有効出席者27名

(出席者) 戸田邦司、古川保夫、三井祥功、尾島裕太郎、加藤正義、高田尚之、池田栄宏、今北文夫、大谷正彦、鈴木保夫、野口隆司、榎葉克也、服部一良、平賀誠、山本高靖、渡辺康夫、小田泰義、稲継一洋、金井寿雄 以上 19名
(委任状提出者) 周東英郷(加藤正義)、松永一生(加藤正義)、川端治夫(尾島裕太郎)、竹内聡一(尾島裕太郎)、坂谷定生(古川保夫)、渡辺行彦(加藤正義)、馬場益弘(小田泰義)、岩田行史(高田尚之) 以上8名

(関係者) 監事 市原恭夫、清田博

支部長 内藤恒夫、川久保史朗、中村寛、榎葉文則

代議員 富田稔、浪川宏

4議題

議案1 NORC解散、JSAF統合に当り、各種問題点の説明、検討を行う件

議案2 1999年度第3回理事会及び1999年度第2回代議員会の議題を確定する件

報告 JSAF役員候補、評議員候補の選挙結果について

5議事

2月6日(土)13:30 加藤常務理事は、理事30名中有効出席者27名を確認し、本理事会の成立を告げた。戸田会長が所用で会議出席が遅れるとの連絡で、出席理事に諮り、三井副会長が議長となり開会を宣言した。15:00 戸田会長が会議に出席したので戸田会長が議長になった。

なお、この時刻までに戸田会長を含め4名の理事が出席し、有効出席者数は27名となった。戸田議長は、議事録署名人に山本高靖理事及び渡辺康夫理事を指名した。

議案1 NORC解散、JSAF統合に当り、各種問題点の説明、検討を行う件

高田常務理事から、本理事会において、上記議案用に作成した1999年度第2回理事会検討テーマ(順不同)は、内容が多岐にわたっているため、本日の会議で次回理事会・代議員会の議題と審議内容の整理を行いたい旨提案し了承された。

(1) 1999年度事業報告案及び取支予算案について
総会資料校正刷り1998年度事業報告案については異論がなかった。

校正刷り1998年度取支決算案については、NORC本部分について説明と質疑が行われた。この中で、本部B.Sにおいて臨時会費の未収金が2,299,400円あるが、解散までに回収に最大限努力するものとし、1999年度第2回代議員会においては各支部別内訳を発表し、支部の協力を求めることになった。

<審議決定>

(2) 1999年度事業計画案及び取支予算案について

総会資料校正刷り1999年度事業計画案は、1998年

度第5回代議員会で承認されたものを、改めて提出したもので異論がなかった。

校正刷り1999年度本部収支予算案も、1998年度第5回代議員会で承認されたものを、決算の確定により調整した旨の説明と質疑が行われた。なお、1999年度(1月1日～3月31日)入会者には、本部へ入金納入次第NORCネクタイ1本を贈呈することが確認された。さらに、昨年開始した艇登録シールは、1999年度中に作成してNORCのネーム入りデザインのものをもそのままJSAF 1999年度終了まで使用することになった。

<審議決定>

(3) JSAF 推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認(代議員会)について

1月31日午前NORC会議室に全国区選挙選出理事候補の戸田邦司、尾島裕太郎、古川保夫及び地方選挙選出理事候補の池田栄宏(委任・尾島裕太郎)、鈴木保夫、都築勝利(委任・戸田邦司)、小田泰義が集い、次の者を推薦理事候補と推薦評議員候補に選出した旨の説明、了承要請があった。

推薦理事候補

高田 稔 浪川 宏 平賀 威 山本高靖

推薦評議員候補

岩田行史 大矢 隆 笠原文和 地曳源樹

鈴木重行 高村 宏 田中一美 沼田尚文

松本剛一

<審議決定>

(4) JSAF 機関誌の名称について

日本ヨット界統合準備委員会の統合事務手続小委員会で、JSAFの機関誌名称を種々検討の結果「Sailing」に決め、日本ヨット界統合準備委員会において了承された旨の説明が行われた。

<審議決定>

(5) JSAF 旗の制定及び意匠登録について

JSAF旗の制定については、統合事務手続小委員会で、昨年来数回の検討会を行い、吹浦忠正氏のアドバイスを受け、また、旗関係で日本のトップクラスのデザイナーの永井正氏のデザインで、別図のような旗に決め、日本ヨット界統合準備委員会において了承された。

また、このJSAF旗と「日本セーリング連盟」の名称、「JAPAN SAILING FEDERATION」の名称についても、今後の類似使用に備え、商標登録をした旨の報告があった。登録費用はNORC及びJYAで分担する。なお、JSAF旗は国際連合、フラッグリサーチセンター等にも登録する。

<審議決定>

(6) ジャパンカップ及びジャパングアムレースの開催方針について

(a) '99ジャパンカップ

関東4支部(東京湾、三崎、三浦、湘南)の共催のもとにジャパンカップ実行委員会を組織する。

開催予定日 10/2,3(土、日)

インスペクション、艇長会議

／9,10,11(土、日、祭)インショア6R

／16,17(土、日)オフショアR表彰式

3月末発行予定のオフショアには実施要項を掲載する予定である。

2月下旬までに予算表の作成、実行委員会の任命をする。以降は関西、関東の支部で順送りに毎年開催するが、他の地区の支部が開催を希望する場合は該当支部と協議し開催場所を決定する。

(b) '99 ジャパングアムヨットレース

三崎支部主催のもとに実行委員会を組織する。

開催予定日 12/25～1/5

今年は21世紀への節目の年なので連続開催するが、基本的に2年ごとの開催とする。

スタート地点は関東、関西にこだわらず参加艇の希望をできるだけ取り入れたい。

今回は2001年～2002年とする。

以上の説明と質疑が行われた。

<審議決定>

(7) 統合後におけるN協会支部の名称について

統合後はN協会支部は加盟団体となるが、名称は当分の間は一定の基準により各支部の名称を決めることが適当である。

日本名 外洋○○支部

(なお頭には、JSAF又は日本セーリング連盟を加えることは差支えないが財団法人は禁止する。)

英文名 JAPAN SAILING FEDERATION ○ ○

BRANCH

以上の説明と質疑が行われた。

<審議決定>

(8) 会員関係の対処方針について

(a) 海外会員の廃止

JSAFでは入会金がないこと、JYAにはこのような特例制度が無いことから、廃止する。

(b) 準会員の廃止

現員数も5名程度で特例制度の存続意義が乏しく、廃止する。

(c) 名誉会員の廃止

JSAF寄付行為には名誉会員制度はなく、1997年制定した名誉会員は廃止する。

なお、各支部が加盟団体になったとき、名誉会員を設けることは差支なく、また、加盟団体にて名誉会員の会費を負担して会員の継続を図ることも可である。

(d) 顧問の廃止

NORC顧問をJSAF顧問に引継ぐことは規定上から難しく、また、JSAF寄付行為での当初定数は10名であるが将来は3名となることから、NORC解散をもってNORC顧問は終了とさせていただきます。

3月末には会長から各顧問あてに礼状を発信する。

なお、野本顧問にはJYAに入会して、顧問になっていたかどうかの特例措置をとるものとする。

(e) 本部無所属会員

JSAFへ統合になることから、各会員に通知し、いずれかのN協会加盟団体に入るよう要請する。

(f) 会員証について

紙カード会員証 NORC1999年度限りで退会する会員へ配布

プラスチックカード 会員証 表 1999年度 NORC 会員証

裏 1999年度 JSAF 会員証

会費納入者にすみやかに配布する。

(g) カード会員について

新規募集は行わず、JSAF統合後カード会社と対応を検討する。

以上の説明と質疑が行われた。

<審議決定>

(9) 会友艇の廃止について

解散日をもって、「会友ならびに会友艇船登録規程」を廃止することとする。

(附則の経過規定も消滅する。)

以上の説明があった。会友艇関連では保険及びNORC海岸局への加入・登録は契約期間、加入申込期間は有効とし、セールナンバーについては艇登録をJSAFになって行わないときは認められなくなる旨質問に対し回答した。

<審議決定>

(10) 1998年度会費滞納者の除名について

1998年秋に1998年度会費滞納者は除名したはずであるが、若干でも残っている場合はバランスを失うので、次回代議員会で除名手続をとる旨説明した。

<審議決定>

(11) 特別規定検査の有効期間について

1999年1月1日から3月31日までに実施した標記検査は、JSAF1999年度(4月1日～2000年3月31日)の間も有効(今後はJSAF会計年度で処理)とする。

また、検査料は本部5,000円、支部3,000円、検査員2,000はそのままとする。なお、NORC1999年度中に発生した検査料で本部納入分は精算事務の整理上直ちに送付する。

以上の説明と質疑が行われた。

<審議決定>

(12) NORC 記念誌の編集と資金調達方法について

NORC解散に伴い、NORC 記念誌を編集する。記念誌の中にはグアムレース事故裁判の教訓も含めるものとする。編集委員を選定し、JSAF 統合後作業に着手する。編纂委員数は1,000部、予算3～400万円を予想し、正規予算によらず、別個に寄付金を募り行うものとする。

以上の説明と質疑が行われた。

<審議決定>

(13) 1999年度JSAF 予算について

監督官庁(運輸省、文部省)からの要請で策定した統合後3ヶ年の収支予算の概要(日本ヨット界統合準備委員会了承済)を説明した。今月末から来月早々にはJSAF 新理事候補により具体的なJSAF 予算(外洋本部関係)を策定することが予想される。統合して直ちに予算を一本化することは難しく、先ず会費収入は共通部分とし、その他収入の大部分は外洋本部としての予算を作り、半年後に補正することになる見込みであるとの説明があった。

なお、JSAF 会費は1人当たり5,500円であるがそのうち2割は加盟団体交付金として処理することが確認された。ただし、1999年度は初年度であるのでN協会系理事・委員間で、4月以降も各種打合をする必要があることから、それらの費用はJSAF 全体から支出することは不可能なので、必要予算が生じた場合はこの交付金に相当する額を納入していただき、その費用とすることも確認された。また、外洋本部収支が不足するときは2000年度以降において別途収支改善策(艇登録料の増額等)を検討することになった。

さらに、JSAF になったとき、会議室確保が困難な見通しなのでN協会系委員会の会議や関東各加盟団体の会議を主体に行う会議室の確保について前向きに検討することとなった。

<審議決定>

(14) JYA 4年会員となっているNORC 会員の取扱いについて JYA では役付を4年会員とすることを義務づけているが、NORC はすべて単年度支払い会員制度をとっているため、統合後の会員管理に問題が発生する。データベースの突合せが上手く出来なかったため、次号OffshoreでJYA 4年会員となっているNORC 会員の申告要請をすることにした。本件については、統合後速やかに解決することとしたい旨の説明があった。

<審議決定>

(15) 主催、共催問題等について

主催、共催問題、クラブ加入問題についてはJSAF 統合後においても、早急に討議し方針決定すべき問題としている旨の説明があった。

これに関連し、富田国際部会長から国際セーリング競技規則RRS(1997-2000)第7章のOrganizing Authority について現実海外ではどのように行われているか、又日本のレース開催の実情と比較した説明が次のとおりであった。

アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスその他各国ではヨットクラブが公認クラブとして、クラブ単位もしくはクラブ共同でレースを運営するものが当たり前であり例外が見られない。よってレース運営イコール、主催となっているのが現実である。日本においてはクラブの概念が明確でないうえ、ヨット係留管理を行うものクラブとはなっていない。今後クラブ単位でのレースを推進するにしても、支部単位でのクラブとする案もあるが、レース運営の実績からいゆるフリート単位でクラブと呼べるところもあるから今後レースオフィサーの適格制度やクラブ承認制度(年間レース開催回数、他などを含め)の議論が必要である。

アメリカを例にとると、クラブには協会加盟のメンバーと非加盟のメンバー両者が勿論在籍するが、その両者がクラブを支え、クラブから上納金(Dues)を支払われ、個人加盟会員(6000円・年)とともに中央組織USセーリング(Policyの運営と技術に専念している)を支える構造となっている。クラブはレースその他イベント運営の実行機関である。

セールナンバーについても非加入艇に対しては低価格(6000円・一生)で与えられ全艇登録が基本でありレース参加艇登録と別に管理される。

海外の運営方式の良いところも取り入れ、さらに日本における非加盟会員のPHRFレースの増加現状なども考慮しクラブ員構成(非加盟の可委員も含め)、中央組織への会費納入方式、加盟クラブと中央との責任分担など明確にする必要がある。

<審議決定>

(16) スポーツ界の組織図について

高田常務理事から理事会席上次の説明があった。

NORCは今迄は運輸省管理下の公益法人であったが、JSAFになると、団体及びオリンピックを含め、体育協会下の中央競技団体としての活動をするようになることを常に意識しなければならない。ただ新組織(JSAF)は単なる競技団体ではなく運輸省所管の海事思想普及の部分および、エンジン付きの船舶に関する事項が別に存在し、かつ、NORC組織からの競技に直接かかわっていない2000名をこえる維持会員が存在する団体であることも念頭において政策等を決定して行く必要がある。

(別図 スポーツ界の組織図)

<審議決定>

議案2 1999年度第3回理事会及び第2回代議員会の議題を確定する件

議案1の審議により議案及び提案内容は(1)から(12)までの12議案と報告は(13)から(14)を1999年第3回理事会議題及び1999年度第2回代議員会議題とすることになった。

<審議決定>

報告 JSAF 役員候補、評議員候補の選挙結果について

議案(3)JSAF 推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認についての際に選挙結果を併せ報告した。

他に質疑意見等なく、以上で審議を終了し、1999年度第2回理事会を終えた。

上記議事録に誤りのないことを証明し、署名押印する。

平成11年2月6日

議長 戸田邦司

署名人 山本高靖

署名人 渡辺康夫

1999年度第3回理事会議事録

1日 時 1999年2月21日(日) 11:00～13:40
 2場 所 第1オカモトビル 4F 会議室
 3出席者 理事30名中 有効出席者27名
 (出席者)古川保夫、尾島裕太郎、三井祥功、加藤正義、
 高田尚之、今北文夫、大谷正彦、鈴木保夫、周東英嗣、
 野口隆司、榎葉克也、山本高靖、渡辺康夫、松永一生、
 坂谷定生、小田泰義 以上 16名

(書面表決者)

戸田邦司、池田栄宏、平賀威、白井義博、川端治夫、
 竹内聡一、渡辺行彦、稲継一洋、岩田行史、金井寿雄、
 松尾貴比古 以上 11名

(関係者)

監事 市原恭夫、清田博
 支部長 内藤恒夫、川久保史朗
 JSAF 理事候補 富田稔、浪川宏、都築勝利
 代議員 足立利男、地曳源樹、福田義一

4 議 題

- 議案1 新入会員の承認を求める件
 議案2 1998年度会費滞納者の除名の承認を求める件
 議案3 1998年度事業報告書の承認を求める件
 議案4 1999年度事業計画案及び収支予算案の承認を求め
 る件
 議案5 JSAF 推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認を
 求める件
 議案6 JSAF 機関誌名の名称について承認を求める件
 議案7 JSAF 旗の制定及び意匠登録について承認を求める件
 議案8 ジャパンカップ及びジャパン・グアムヨットレースの開催
 方針について承認を求める件
 議案9 統合後におけるN協会支部の名称について承認を求
 める件
 議案10 会員関係の対処方針について承認を求める件
 議案11 会友艇の廃止について承認を求める件
 議案12 特別規定検査の有効期間について承認を求める件
 議案13 NORC 記念誌の編集と資金調達方法について承認
 を求める件

緊急上程 議案14 JSAFにおける委員会構成の決定と
 委員の選任をN協会 JSAF 理事候補者に一任する件

緊急上程 議案15 1999年度第3回理事会上程議案の一
 部取り下げとこれに代わる訂正議案の緊急上程につ
 いて

報告1 NORCの解散・JSAFへの統合に関する現況概要報
 告(口頭)

報告2 その他報告(口頭)

報告3 1999年度 JSAF 予算について

報告4 JYA 4年会員となっているNORC 会員の取扱について

5 議 事

2月21日(日)11:00加藤常務理事は、理事30名中
 有効出席者27名を確認し、本理事会の成立を告げた。
 戸田会長が所用で欠席したので、理事会出席者に諮り、
 古川副会長が議長となった。古川議長は議事録署名人
 に今北文夫理事及び山本高靖理事を指名した。

議案1 新入会員の承認を求める件

1998年11月12日から、1999年1月31日間に入会
 申込のあった35名の入会の承認を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案2 1998年度会費滞納者の除名の承認を求める件

1998年度会費滞納者1名が残存していたので、除名
 の承認を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

緊急上程議案15 1999年度第3回理事会上程議案の一部
 取り下げとこれに代わる訂正議案の緊急上程について
 開催通知の議案3 1998年度事業報告書及び収支決
 算案の承認を求める件のうち、収支決算案について、
 中村三浦支部長から、2月18日ききに本部に提出した
 1998年度三浦支部収支決算に錯誤があり、訂正の申出
 があった。議案の収支決算案は連結決算であることか
 ら、この上程を取下げることにした。また、本日
 席上配布した訂正した1998年度収支決算案の承認を
 得た旨述べた。

次に、本日訂正した1998年度収支決算案が審議決定
 になったことは、本議案承認のための代議員会を早急
 に開催したい旨述べた。

鈴木財務委員長から1998年度本部収支概要説明が
 あった。

〔収入〕

(1) 会費収入

臨時会費を除く一般会費は予算をシビアに想定した為
 に、予算を5,540,000円上廻った。

タカ号の臨時会費も860,500円の増収となった。

(2) 艇登録

艇登録収入についても会費と同様に2,721,500円の増収と
 なった。

(3) 事業収入

計測料及び安全検査料収入は予算を1,284,355円下廻った。

(4) 借入金収入

救済基金の返済は'98年9月中に返済する予定であったが、
 解散時の費用等を検査し返済を引き延ばした。その結果、会
 計処理上は9,300,000円を返済し、新たに8,300,000円の借入
 とした。

(5) その結果、当期収入は61,907,067円となった。

〔支出〕

(1) 事業費

総務委員会の支出には、タカ号裁判費用の残金9,402,152
 円と和解金3,000,000円が含まれている為、実質840,445円の
 支出である。

全体としては、予算に対して592,816円少ない決算となった。

(2) 会議費、管理費についても予算内に収まった。

(3) 短期借入金返済支出は、救済基金9,300,000円を一旦返
 済した事と計上した。

(4) 全体として、予算を4,350,659円下廻る決算となった。

本件は緊急上程議案であることから、出席理事のみによって賛
 否をとることになった。

採決 賛16名 否0名〈審議決定〉

議案3 1998年度事業報告書の承認を求める件

総会資料1998年度事業報告(案)について説明し、承認
 を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案4 1999年度事業計画案及び収支予算案の承認を求め
 る件

総会資料1999年度事業計画(案)については、1998
 年度第5回代議員会(1998年12月13日)において承認
 を得たことを掲載した旨説明した。1999年度収支予
 算(案)も同様であるが、鈴木財務委員長から、1999
 年度(1月～3月)の本部予算案の概要説明があった。

〔収入〕

(1) 会費収入

特別会員を900人、正会員を2200人と想定し、年会
 費収入を10,850,000円とした。

98年9月に会員よりの寄附金、合計4,179,185円を
 その他の会費収入とした。

(2) 舟艇会費

3ヶ月間に5,100,000円を計上した。

〔支出〕

(1) 管理費

NORC 精算に伴い、退職金として2,130,000円を計上。

(2) 借入金(救済基金)は全て返済する目的がたった為、
 8,300,000円を計上した。

(3) 予備費

税金及び99年度の主催者保険料及び生産の費として、
 4,600,000円を計上した。

なお、未収金について席上各支部別内訳表を示し、各
 支部に解散までの間に支払うよう強く働きかけると説明
 した。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案5 JSAF 推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認を
 求める件

1999年1月31日 JSAF 選挙理事候補7名により選出した
 次の推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認を得た。

推薦理事候補 富田 稔(三崎支部)

浪川 宏(湘南支部) 平賀 威(三浦支部)

山本高靖(東京湾支部)

推薦評議員候補 岩田行史(西内海支部)

大矢 隆(東海支部) 笠原文和(近畿北陸支部)

地曳源樹(東京湾支部) 鈴木重行(内海支部)

高村 宏(三崎支部) 田中一美(湘南支部)

沼田尚文(湘南支部) 松本剛一(内海支部)

採決 賛27名〈審議決定〉

議案6 JSAF 機関誌の名称について承認を求める件

JSAF 機関誌名の名称をJ-Sailingとすることにつ
 いて承認を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案7 JSAF 旗の制定及び意匠登録について承認を求める件

JSAF 旗の承認を得た。また、JSAF 旗、「日本セーリング連
 盟」の名称、「JAPAN SAILING FEDERATION」の名称を商
 標登録等することについても承認を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案8 ジャパンカップ及びジャパン・グアムヨットレースの開催方
 針について承認を求める件

つぎの方針について承認を得た。

(1) ジャパンカップ

1999年度は関東地区で10月開催する。以後関西地区、関
 東地区廻り持で開催する。他地区支部が開催を希望する
 ときは当番地区支部と協議する。

(2) ジャパン・グアムレース

1999年度は三崎支部主催で開催する。以降隔年とする。ス
 タート地点は参加艇の希望を含め決定する。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案9 統合におけるN協会支部の名称について承認を
 求める件

当分の間、日本名は 外洋○○支部(頭に JSAF 又は
 日本セーリング連盟をつけることは可)、英文名は
 JAPAN SAILING FEDERATION ○○ BRANCHを基準
 として各支部で名称を決めることが適当とすることにつ
 いて承認を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案10 会員関係の対処方針について承認を求める件
 JSAF 統合により、NORCの制度のうち会員関係で、海
 外会員の廃止、準会員の廃止、名誉会員の廃止、顧問
 の廃止、本部無所属会員の取扱中止、カード会員の新規募
 集中止について承認を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案11 会友艇の廃止について承認を求める件

NORC 解散日をもって、「会友ならびに会友艇船艇登録
 規程」の廃止の承認を得た。

また、同規程は1997年11月21日外帆規第66附則
 で新規加入は認めないものの、2000年12月31日まで会
 友艇が存在することになっていたが、当然消滅することも確
 認された。ただし、従前の会友艇の資格でNORC 海岸局
 への加入、登録は加入期間に限り有効とする。従前の会友
 艇の資格で加入した従前保険期間については資格を認め
 る。会友艇のセールナンバーは、理論的には消滅し、
 JSAF 外洋本部は返却を求めることになるが、本件処理は
 統合後改めて行う。加盟団体となった支部主催レースで附
 則経過期間の残った従前の会友艇期間については資格を
 特別の参加資格を指示することは、加盟団体の責任で可
 能とする。

以上のごとも確認された。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案12 特別規定検査の有効期間について承認を求め
 る件

NORC 1999年度に実施した特別規定検査はJSAF
 1999年度(4月1日～2000年3月31日)の間も有効と
 する承認を得た。

採決 賛27名〈審議決定〉

議案13 NORC 記念誌の編集と資金調達方法について
 承認を求める件

NORC 解散に伴い、NORC 記念誌を作成することし、
 これの編集発行は寄付金によることについて承認を得た。

鈴木財務委員長から席上つぎの説明があった。

NORCは、本年3月31日をもって解散JYAと統合し4
 月1日 JSAFとして新発足する事になりました。これを記念
 し、NORCの記念誌を発行することになりました。

NORC ネットタイ、クラブ旗、シール等を記念価格にて販売
 し、記念誌発行の費用にあてます。

是非ご協力をお願い致します。

セット価格

Aセット	10,000円(送料込み)
	記念誌
	ネットタイ
Bセット	18,000円(送料込み)
	記念誌
	ネットタイ
	エンサイン
	クラブ旗
	シールセット(3種)
その他	単品でも販売致します。(送料別途)
	記念誌 5,000円
	エンサイン 5,150円
	クラブ旗 2,050円
	ネットタイ 5,150円
	シール(3種) 1,330円

申込は下記申込用紙にご記入の上、NORC 本部に
 FAX(03-3452-5815)して下さい。
 申込締切は3月20日迄と致します。

採決 賛26名 否1名〈審議決定〉

緊急上程議案14 JSAFにおける委員会構成の決定と委員
 の選任をN協会 JSAF 理事候補に一任する件

JSAF 委員会構成とその委員の選任について、早
 急にJYA側と事前打合をする必要があり、本件は
 NORC 理事による交渉は現実的対応でないことか
 ら、本件交渉をJSAF 理事候補に一任することにつ
 いて承認を得た。

本件については、一部理事から委員会メンバーの
 人選決定については、自治的決定権がある旨の発言
 があったが、現 NORCの委任の人選は自治的に行わ
 れていたこと、今後も特別の事情のない限りJSAF
 においても従前の方式が尊重されることになるの
 であろうと説明した。

本件は緊急上程議案であることから、出席理事のみによって賛否をとることになった。
採決 賛15名 否1名 (審議決定)

報告1 NORCの解散・JSAFへの統合に関する現況概要報告
日本ヨット界統合準備委員会は、1999年に入ってから1月19日、2月9日開催し、次回は2月26日を予定している。各種打合を精力的に行っているが、1月19日の委員会議事録作成において、「解散日における各支部発生の特種金を加盟団体交付金とすることの合意に伴う、支部から加盟団体に代わるときの認識」について、JYA側からNORCは1加盟団体とする発想からの訂正申入れがあり、協議の結果JYA側は撤回して第21回議事録のとおり決まった。(Offshore 265号掲載)

これに関連して、理事会席上NORC支部会員からJYAの会議席上においても「外洋艇を統括する団体」はNORCのごことであり、16支部ではない旨の発言があった旨の披露があった。

また、次回26日開催予定の統合委員会審議資料として2月17日にJYA側から提示された組織運営規則草案には、「外洋艇を統括する団体とは、旧社団法人 日本外洋帆船協会 の16支部である。」と書かれていることは評価するものの、その後の()には、「(ただし、平成15年3月31日までとする。)」となっている。統合の実を達成するため、暫定期間4年間にて改定することは合意しているが、この期限により16支部だけの廃止は合意していない旨を理事会席上説明した。このJYA提示の草案に対しては、これからの交渉によりNORC側委員により今後の統合合意の趣旨に反することのないよう、強い態度で望む旨説明した。

一部理事からは、これらに対し強い反発があり、「このようなことでは統合を中止すべきだ」あるいは「延期すべきだ」との意見と、これについての決議要求があった。

執行部としては、このような事実があったことを説明し、執行部としても交渉により当然に改訂を申し入れるものであり、決議要求については取り下げの了解を得た。

報告2 その他報告

(1) 現在予定あるいは判明している会議スケジュールの報告があった。

NORC	2月28日(日)	1999年度第3回代議員会(書面表決代議員会)
	3月28日(日)	1999年度第4回理事会
		1999年度第4回代議員会(緊急事件があれば書面表決による理事会、代議員会を3月28日前行う)
JYA	3月14日	評議員会
JSAF	4月1日	理事会
	4月10日	理事会
	5月8日	理事会
	5月23日	評議員会

(2) ORC特別規定検査員認定規定(案)及び日本沿岸ヨットレース特別規程(案)について、野口安全委員長は、近々問題点、改正要旨点についてのアンケートを各支部に送り、成案を得て解散前の理事会において承認を得たい旨説明した。

(3) ルールに関するJSAF規程について、榎葉ルール委員長は、統合により日本ヨット協会規程・NORC外洋レース規則を基に、新たなJSAF規程作成作業を、NORC及びJYAルール委員会が協同で行っている。新たなJSAF規程はJSAF理事会において審議決定になるが、このような概況を報告するとの説明があった。

(なお、NORC外洋レース規則は一部改正して存続とする。)

報告3 1999年度JSAF予算について

2月末から3月早々にはJSAF新理事候補により具体的なJSAF予算(外洋本部関係)を策定することが予想される。統合して直ちに予算を一化することは難しく、先ず会費収入は共通部分とし、その他収入の大部分は外洋本部としての予算を作り、半年後に補正することになる見込みであるとの説明があった。

なお、JSAF会費は1人当たり5,500円であるがそのうち2割は加盟団体交付金として処理することが確認された。ただし、1999

年度は初年度であるのでN協会理事・委員間で、4月以降も各種打合をする必要があることから、それらの費用はJSAF全体から支出することは不可能なので、必要予算が生じた場合は必要とする相当額を差し引いて納入していただき、その費用とすることも確認された。また、外洋本部収支が不足するときは2000年度以降において別途収支改善方策(艇登録料の増額等)を検討することにする旨の説明があった。

さらに、JSAFになったとき、会議室確保が困難な見通しなのでN協会系委員会の会議や関東各加盟団体の会議を主体に行う会議室の確保について前向きに検討する旨の説明があった。

報告4 JYA4年会員となっているNORC会員の取扱いについて

JYAには4年会員が1600人程度存在し、目下事務的照合中であるがNORC会員でもある者は100名ないし200名までと推測される。

この3月までに県連盟を通じて4年制会員になっている者については、統合後交渉するが外洋支部への会費のキックバックは難しいとみられる。4月以降でN系の者が4年会員となるときは、外洋支部へ申込をしてもいい、キックバックの対象になるようにすることが必要である。ともあれ、軸足がN系にあるか、J系にあるか、これを更に統合前後で明確にしておく必要がある旨の説明、報告があった。

なお、4月以降N系及びJ系にそれぞれ会費を支払ったことが判明したとき、軸足を決めればいずれかの会費は返却されることとする説明があった。

他に質疑意見等なく、以上で審議を終了し、1999年度第3回理事会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、署名押印する。

平成11年2月21日
議長 古川保夫
署名人 今北文夫
署名人 山本高靖

1999年度第2回代議員会議事録

1日 時 1999年2月21日(日)13:45 ~ 16:30
2場 所 第1オカモトビル4階会議室
3出席者 代議員120名中 有効出席者105名
(出席者) 福田義一、山本高靖、鈴木利夫、安本邦貴、大野健作、斎藤晴彦、地曳源樹、福田祐一郎、周東英樹、渡辺康夫、野口隆司、方栄世、富田稔、山本憲生、横山一郎、米原守、川久保史朗、関恭一郎、鈴木知二、榎葉克也、足立利男、市村俊明、山中昭弘、林幹雄、浪川宏、矢野守夫、島山睦郎、近藤等、堀口三備、小田泰義、松永一生、都築勝利、坂谷定生 以上33名
(書面表決者) 別部尚司、沼田尚文、田村治久、大倉俊、西田兼義、大川和好、後藤賢治、長浦勝則、楠松由量、杉本光昭、高村宏、松村茂、西啓、土井收二、田畑勝年、池田栄宏、大坪明、関野文夫、村野裕、渡辺行彦、和久井喜治郎、亀谷雄剛、薬谷俊哉、山本昌弘、大矢隆、日向野行平、末松明、原高哉、馬場益弘、竹内聡一、渡邊晋也、原田芳治、笠原文和、妹尾達樹、鈴木幹夫、中里英一、小林勝海、安久彰、松本剛一、松本太一、蒲谷和行、金井寿雄、瀧谷勲、小林昇、河部謙男、北村勝彦、野田福美、山本一博、寺川良孝、長谷川富延、平賀威、井岡裕昭、岡田清春、山本善徳、森岡稔夫、羽柴宏次、藤本直樹、猪狩博、横山庄蔵、坂倉純二、丹羽秀夫、余田実、貞松猛郎、桃原秀明、加藤強、稲葉文則、阪田栄一、室井誠、岩谷政次、山田邦彦、河内道夫、大島茂樹 以上72名
(関係者) 理事 古川保夫、三井祥功、尾島裕太郎、加藤正義、高田尚之、鈴木保夫
監事 市原恭夫、清田博
支部長 内藤恒夫
JSAF理事候補 富田稔

- 4 議題**
- 議案1 1998年度事業報告案の承認を求める件
 - 議案2 1999年度事業計画案及び収支予算案の承認を求める件
 - 議案3 JSAF推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認を求める件
 - 議案4 JSAF機関誌名の名称について承認を求める件
 - 議案5 JSAF旗の制定及び意匠登録について承認を求める件
 - 議案6 ジャパンカップ及びジャパンシーゲームヨットレースの開催方針について承認を求める件
 - 議案7 統合後におけるN協会支部の名称について承認を求める件
 - 議案8 会員関係の対処方針について承認を求める件
 - 議案9 会友艇の廃止について承認を求める件
 - 議案10 1998年度会費滞納者の除名について承認を求める件

議案11 特別規定検査の有効期間について承認を求める件
議案12 NORC記念誌の編集と資金調達方法について承認を求める件

緊急上程 議案13 1999年度第2回代議員会の上程議案の一部取り下げについて

報告1 1999年度JSAF予算について
報告2 JYA4年会員となっているNORC会員の取扱いについて
報告3 NORCの解散・JSAFへの統合に関する現況概要報告(口頭)
報告4 その他報告(口頭)
協議事項 NORC財政破綻者に対する追求について

5 議事

2月21日(日)13:45加藤常務理事は、代議員120名中有効出席者105名を確認し、本理事会の成立を告げた。戸田会長が所用で欠席したので、代議員会出席者に諮り、古川副会長が議長となった。古川議長は、議事録署名人に浪川宏代議員(湘南支部)及び山本憲生代議員(三浦支部)を指名した。

緊急上程 議案13 1999年度第2回代議員会の上程議案の一部取り下げについて

開催通知の議案1 1998年度事業報告案及び収支予算案の承認を求める件のうち、収支決算案について、中村三浦支部長から、2月18日までに本部に提出した1998年度三浦支部収支決算に錯誤があり、訂正の申出があった。議案の収支決算案は連結決算であることから、これの上程を取り下げることにした旨述べた。

また、訂正した1998年度収支決算案は、さきの1999年度第3回理事会で審議決定になったので、2月28日書面表決による1999年度第3回代議員会を開催する計画である旨説明した。

審議の結果上程取り下げの承認を得た。
採決 出席代議員のみによる賛否 賛33名 否0名 (審議決定)

なお、参考として鈴木財務委員長は1998年度本部収支概要の説明を行った。

[収入]

- (1) 会費収入
臨時会費を除く一般会費は予算をシビアに想定した為に、予算を5,540,000円上廻った。
タカ号の臨時会費も860,500円の増収となった。
- (2) 艇登録
艇登録収入についても会費と同様に2,721,500円の増収となった。
- (3) 事業収入
計測料及び安全検査料収入は予算を1,284,355円下廻った。
- (4) 借入金収入

救済基金の返済は98年9月中旬に返済する予定であったが、解散時の費用等を検査し返済を引き延ばした。その結果、会計処理上は9,300,000円を返済し、新たに8,300,000円の借入とした。

(5) その結果、当期収入は61,907,067円となった。
[支出]

(1) 事業費
総務委員会の支出には、タカ号裁判費用の残金9,402,152円と和解金3,000,000円が含まれている為、実質840,445円の支出である。

全体としては、予算に対して592,816円少ない決算となった。

- (2) 会議費、管理費についても予算内に収まった。
- (3) 短期借入金返済支出は、救済基金9,300,000円を一旦返済した事として計上した。
- (4) 全体として、予算を4,350,659円下廻る決算となった。

議案1 1998年度事業報告案の承認を求める件
総会資料1998年度事業報告(案)について説明し、承認を得た。

採決 賛104名 否1名 (審議決定)

議案2 1999年度事業計画案及び収支予算案の承認を求める件

総会資料1999年度事業計画(案)については、1998年度第5回代議員会(1998年12月13日)において承認を得たものを掲載した旨説明した。1999年度収支予算(案)も同様であるが、鈴木財務委員長から、1999年度(1月~3月)の本部予算案の概要説明があった。

[収入]

- (1) 会費収入
特別会員を900人、正会員を2200人と想定し、年会費収入を10,850,000円とした。
98年9月に会員よりの寄附金、合計4,179,185円をその他会費収入とした。
- (2) 舟艇会費
3ヶ月間に5,100,000円を計上した。

[支出]

- (1) 管理費
NORC精算に伴い、退職金として2,130,000円を計上。
- (2) 借入金(救済基金)は全て返済する目的がたつた為、8,300,000円を計上した。
- (3) 予備費
税金及び99年度の主権者保険料及び生産の費として、4,600,000円を計上した。

なお、未収金について席上各支部別内訳を示し、各支部に解散までの間に支払うよう強く働きかけると説明した。

採決 賛104名 否1名 (審議決定)

議案3 JSAF 推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認を求める件

1999年1月31日 JSAF 選挙理事候補7名により選出された推薦理事候補及び推薦評議員候補の承認を得た。

推薦理事候補

富田 稔(三崎支部) 浪川 宏(湘南支部)
平賀 威(三浦支部) 山本高靖(東京湾支部)

推薦評議員候補

岩田行史(西内海支部)大矢 隆(東海支部)
笠原文和(近畿北陸支部) 地曳源樹(東京湾支部)
鈴木重行(内海支部) 高村 宏(三崎支部)
田中一美(湘南支部) 沼田尚文(湘南支部)
松本剛一(内海支部)

採決 賛102名 否2名 棄権1名 (審議決定)

議案4 JSAF 機関誌の名称について承認を求める件

JSAF 機関誌の名称を「J-Sailing」とすることについて承認を得た。

採決 賛105名 (審議決定)

議案5 JSAF 旗の制定及び意匠登録について承認を求める件

JSAF 旗の承認を得た。また、JSAF 旗、「日本セーリング連盟」の名称、「JAPAN SAILING FEDERATION」の名称を商標登録等することについても承認を得た。

採決 賛105名 (審議決定)

議案6 ジャパンカップ及びジャパンリーグの開催方針について承認を求める件

つぎの方針について承認を得た。

(1) ジャパンカップ

1999年度は関東地区で10月開催する。その後関西地区、関東地区廻りで開催する。他地区支部が開催を希望するときは当番地区支部と協議する。

(2) ジャパンリーグ

1999年度は三崎支部主催で開催する。以降隔年とする。スタート地点は参加艇の希望を含め決定する。

採決 賛101名 否4名 (審議決定)

議案7 統合後におけるN協会支部の名称について承認を求める件

当分の間、日本名は「外洋○○支部(頭にJSAF又は日本セーリング連盟をつけることは可)、英文名は「JAPAN SAILING FEDERATION ○○BRANCH」を基準として各支部で名称を決めることが適当とすることについて承認を得た。

採決 賛104名 否1名 (審議決定)

議案8 会員関係の対処方針について承認を求める件

JSAF 統合により、NORC の制度のうち会員関係で、海外会員の廃止、準会員の廃止、名誉会員の廃止、顧問の廃止、本部無所属会員の取扱中止、カード会員の新規募集中止について承認を得た。

採決 賛104名 否1名 (審議決定)

議案9 会友艇の廃止について承認を求める件

NORC 解散日をもって、「会友ならびに会友艇船艇登録規程」の廃止の承認を得た。

また、同規程は1997年11月21日外航規60附則で新規加入は認めないものの2000年12月31日まで会友艇が存在することになっていたが、当然消滅することも確認された。ただし、従前の会友艇の資格でNORC 海岸局への加入、登録は加入期間に限り有効とする。従前の会友艇の資格で加入した保険も保険期間については資格を認める。会友艇のセーラーナンバーは、理論的には消滅し、JSAF 外洋本部に返却を求めることになるが、本件処理は統合後改めて行う。加盟団体となった支部主催レースで帆走指示書において附則経過期間の残った会友艇だった艇に対し帆走指示書で、特別の参加資格を指示することは、加盟団体の責任で可能とする。

なお、セーラーナンバーの管理の基本について、改めてセーラーナンバーは登録艇の交付者につくものとするか、登録艇につくものとするかについて、具体的な議論をしたい旨説明した。

採決 賛104名 否1名 (審議決定)

議案10 1998年度会費滞納者の除名の承認を求める件

1998年度会費滞納者1名が残っていたので、除名の承認を得た。

採決 賛105名 (審議決定)

議案11 特別規定検査の有効期間について承認を求める件

NORC 1999年度に実施した特別検査規定検査はJSAF 1999年度(4月1日～2000年3月31日)の間も有効とする承認を得た。

採決 賛104名 否1名 (審議決定)

議案12 NORC 記念誌の編集と資金調達方法について承認を求める件

NORC 解散に伴い、NORC 記念誌を作成することとし、これの編集発刊は寄付金によることについて承認を得た。

鈴木財務委員長から席上つぎの説明があった。

NORC は、本年3月31日をもって解散、JYA と統合し4月1日 JSAF として新発足する事になりました。これを記念し、

NORC の記念誌を発行することになりました。

NORC ネットタイ、クラブ旗、シール等を記念価格にて販売し、記念誌発行の費用にあてます。

是非ご協力をお願い致します。

セット価格

A セット 10,000円 (送料込み)

記念誌

ネクタイ

B セット 18,000円 (送料込み)

記念誌

ネクタイ

エンサイン

クラブ旗

シールセット(3種)

その他 単品でも販売致します。(送料別途)

記念誌 5,000円

エンサイン 5,150円

クラブ旗 2,050円

ネクタイ 5,150円

シール(3種) 1,330円

申込は下記申込用紙にご記入の上、NORC 本部に FAX(03-3452-5815)して下さい。

申込締切は3月20日迄と致します。

採決 賛101名 否4名 (審議決定)

報告1 1999年度 JSAF 予算について

2月末から3月早々には JSAF 新理事候補により具体的な JSAF 予算(外洋本部関係)を策定することが予想される。統合して直ちに予算を一本化することは難しく、先ず会費収入は共通部分とし、その他収入の大部分は外洋本部としての予算を作り、半年後に補正することになる見込みであるとの説明があった。

なお、JSAF 会費は1人当り5,500円であるがそのうち2割は加盟団体交付金として処理することが確認された。ただし、1999年度は初年度であるのでN協会理事・委員間て、4月以降も各種打合をする必要があることから、それらの費用は JSAF 全体から支出することは不可能なので、必要予算が生じた場合は必要とする相当額を差し引いて納入していただき、その費用することも確認された。また、外洋本部収支が不足するときは2000年度以降において別途収支改善方策(艇登録料の増額等)を検討することにする旨の説明があった。

さらに、JSAF になったとき、会議室確保が困難な見通しなのでN協会系委員会の会議や関東各加盟団体の会議を主体に行う会議室の確保について前向きに検討する旨の説明があった。

報告2 JYA 4年会員となっているNORC 会員の取扱いについて

JYA には4年会員が1600人程度存在し、目下事務的照合中であるがNORC 会員でもある者は100名ないし200名までと推測される。

この3月までに東連盟を通じて4年制会員になっている者については、統合後交渉するが外洋支部への会費のキックバックは難しいとみられる。4月以降N系の者が4年会員となる場合は、外洋支部へ申込をしてもらい、キックバックの対象にするようにすることが必要である。ともあれ、軸足がN系にあるか、J系にあるか、これを更に統合前後で明確しておく必要がある旨の説明、報告があった。

なお、4月以降N系及びJ系にそれぞれ会費を支払ったことが判明したとき、軸足を決めればいずれかの会費は返却されることとする説明があった。

報告3 NORC の解散・JSAF への統合に関する現況概要

日本ヨット界統合準備委員会は、1999年に入ってから1月19日、2月9日開催し、次回は2月26日を予定している。各種打合を精力的に行っているが、1月19日の委員会議事録作成において、「解散日における各支部発生の特権金を加盟団体交付金とすることの合意に伴う、支部から加盟団体に代わるときの認識」について、JYA 側から NORC は1加盟団体とする発想からの訂正申入れがあり、協議の結果 JYA 側は撤回して第21回議事録のとおり決まった。(Offshore 265号掲載)

これに関連して、理事会席上 NORC 支部会員から JYA の会議席上においても「外洋艇を統括する団体」は NORC のことであり、16支部ではない旨の発言があった旨の披露があった。

また、次回26日開催予定の統合委員会審議資料として2月17日に JYA 側から提示された組織運営規則草案には、「外洋艇を統括する団体とは、旧社団法人 日本外洋航海協会の16支部である。」と書かれていることは評価するものの、その後の()には、「(ただし、平成15年3月31日までとする。)」となっている。統合の実を達成するため、暫定期間4年間にて改定することは合意しているが、この期限により16支部だけの廃止は合意していない旨を理事会席上説明した。この JYA 提示の草案に対しては、これからの交渉により NORC 側委員により今後の統合合意の趣旨に反することのないよう、強い態度で望む旨説明した。

一部理事からは、これらのことに対し強い反発があり、「このよ

うなことでは統合を中止すべきだ」あるいは「延期すべきだ」との意見と、これについての決議要求があった。

執行部としては、このような事実があったことを説明し、執行部としても交渉により当然に改訂を申し入れるものであり、決議要求については取り下げの了解を得た旨の報告があった。

報告4 その他報告

(1) 現在予定あるいは判明している会議スケジュールの報告があった。

NORC	2月28日(日)	1999年度第3回代議員会 (書面表決代議員会)
	3月28日(日)	1999年度第4回理事会 1999年度第4回代議員会 (緊急案件があれば書面表決による理事会、代議員会を 3月28日前に行う)
JYA	3月14日	評議員会
JSAF	4月1日	理事会
	4月10日	理事会
	5月8日	理事会
	5月23日	評議員会

(2) ORC 特別規定検査員認定規定(案)及び日本沿岸ヨットレース特別規程(案)について、野口安全委員長は、近々問題点、改正要望点についてのアンケートを各支部に送り、成案を得て解散前の理事会において承認を得たい旨説明した。

(3) ルールに関する JSAF 規程について、榎原ルール委員長は、統合により日本ヨット協会規程と NORC 外洋レース規則を基に、新たな JSAF 規程作成作業を、NORC 及び JYA ルール委員会が協同で行っている。新たな JSAF 規程は JSAF 理事会において審議決定になるが、このような概況を報告するとの説明があった。

(なお、NORC 外洋レース規則は一部改正して存続とする。)

協議事項 NORC 財政破綻者に対する追求について

方策世代議員、清田博監事等から、NORC は3月31日をもって解散するが、この10年来 NORC の財政を破綻させた役員、特にその中でも中核となって財政、事業を推薦した者に対する責任の追及及び解散により民事上の損害賠償請求が提起されたときの対応責任者が明確でない。現執行部において、とりえず中核となって財政、事業を推進した者に弁明を求めると、解散前に所要の対処を行うべきであるとする強い意見表明があった。また、NORC 財政破綻救済は旧関東支部で行ったが、全国の支部が応分の負担をすべきであるとの表明もあった。

これに対し、尾島専務は個人的な追求は別として構造改革委員会、再建特別委員会を検討はすでに終了している。個人的な追求はご説のように行われていないので、今少し時間をいただき、方法を検討したい旨述べた。

他に質疑意見等なく、以上で審議を終了し、1999年度第2回代議員会を終えた。

上記議事録に誤りのないことを証明し記名押印する。

平成11年2月21日

議長 古川保夫

署名人 浪川 宏

署名人 山本憲生

1999年度第3回代議員会議事録

1日 時 平成11年2月28日(日) 13:00～13:15
 2場 所 社団法人 日本外洋航海協会 会議室
 3出席者 代議員120名中 有効出席者90名
 (出席者)池田栄宏、中村寛、野口隆司、平賀威 以上4名
 (書面表決者)福田義一 以下86省略
 4議案 1998年度取支決算案の承認を求める件
 5議事
 (1) 1999年2月28日(日) 13:00 池田栄宏、中村寛、野口隆司、平賀威 各代議員がNORC会議室に集合した。
 (2) 関係者として尾島裕太郎専務理事、加藤正義常務理事

が集合した。
 (3) 加藤常務理事は、出席代議員以外の書面表決提出代議員86名で、有効出席者数90名となり、本代議員会の成立を確認した。
 (4) 戸田邦司会長の事前指名により、尾島裕太郎専務理事が議長となり、尾島議長は議事録署名人名に池田栄宏代議員(三崎支部)及び野口隆司代議員(東京湾支部)を指名した。
 (5) 議案1998年度取支決算案の承認を求める件の採決を行った。

採決 賛89 否0 棄権1
 審議決定
 以上をもって1999年度第3回代議員会を終えた。
 上記議事録に誤りのないことを証明し、署名押印する。
 平成11年2月28日
 議長 尾島裕太郎
 署名人 池田 栄宏
 署名人 野口 隆司

1999年度第1回総会(通常総会)議事録

1日 時 1999年2月21日(日) 16:35～17:00
 2場 所 第1オカモトヤビル 4F会議室
 3出席者 会員3620名中 有効出席者1057名
 (出席者)古川保夫、尾島裕太郎、三井祥功、加藤正義、高田尚之、今北文夫、大谷正彦、鈴木保夫、周東英嗣、野口隆司、榎葉克也、山本高靖、渡辺康夫、松永一生、坂谷定生、岩田行史、市原恭夫、清田博、内藤恒夫、足立利男、斉藤晴彦、地曳源樹、福田義一、矢野守夫、米原守、市原俊明、川久保史朗、近藤等、鈴木利夫、関恭一郎、富田稔、島山睦郎、福田祐一郎、方栄世、安木邦貴、山中昭弘、山本憲生、大野健作、浪川宏、鈴木知二、堀口三備、横山一郎、都築勝利、林幹雄、河瀬直春、土井悦、横山勝重、寺澤寿一 以上48名
 (書面表決者)児玉源寿 以下省略 1009名

報告し、了承を得た。
 なお、1998年度取支決算については、本部支部連結による決算書を作成したが、2月18日三浦支部長から支部決算書に錯誤があり、訂正の申入れがあった。これにより直ちに訂正作業を行い、2月21日1999年度第3回理事会においては、出席理事数が総理事定数の過半数を越えていたため、訂正1998年度取支決算案を緊急上程して審議決定を得たが、1999年度第2回代議員会の出席代議員数が総代議員定数の過半数を越えていないため、該代議員会においては議案から1998年度取支決算案を削除した。よって、本総会においては該代議員会の決議により1998年度取支決算が削除されていることを説明した。

申し入れる所存である旨述べた。
 その他の報告(口頭)
 1999年度第2回代議員会 議案9 会友艇の廃止について承認を求める件が審議決定になった旨報告したほか、JSAF役員候補及び評議員候補が全員決定したこと、JSAF統合前にJYAと交渉するJSAF委員会構成の決定と委員の選任はJSAF理次候補者に一任することとなったこと等、概要の報告を行った。
 また、代議員会で、NORC解散にあたり、レース事業等の放漫的業務管理より、NORCの財政を悪化させ、多大の借入金を生じさせた理事・監事を厳しく追求すべきであるとの意向が出され、執行部はこれら理事・監事あての弾劾の検討を行うことを約した旨の報告を行った。

議案 別添資料について1998年度事業報告の了承を求める件
 (2) 別添資料について1999年度事業計画及び取支予算の了承を求める件
 (3) NORCの解散・JSAFへの統合に関する現況概要報告(口頭)
 (4) その他の報告(口頭)
 5議事
 (1) 16時35分加藤常務理事の司会により開会した。1月31日現在のNORCの議決権有権者会員(特別会員及び正会員)は3620名で、本総会出席会員は48名、書面表決行使書提出会員は1009名、合計有効出席者は1057名で、本総会の成立を告げた。
 戸田会長が所用のため欠席したので、総会出席者に語り、古川副会長が議長になった。古川議長は議事録署名人名に浪川宏会員(湘南支部)及び山本憲生会員(三浦支部)を指名した。
 (2) 審議状況
 議案1 別添資料について1998年度事業報告の了承を求める件
 1998年度事業報告について、総会用添付資料により

訂正1998年度取支決算案は、きたる2月28日(日)に書面表決行使書による1999年度第3回代議員会において審議されることとなったが、審議決定された場合は、このために改めて臨時総会を開催せず、Offshore誌への公告等により会員への報告とすることが該代議員会において了解されたことを報告した。
 議案2 別添資料について1999年度事業計画及び取支予算の了承を求める件
 1999年度事業計画及び取支予算について、総会用添付資料により報告し、了承を得た。
 議案3 NORCの解散・JSAFへの統合に関する現況報告(口頭)
 1999年度第2回代議員会 議案3 推薦理次候補及び推薦評議員候補の承認を求める件、議案4 JSAF機関誌の名称について承認を求める件、議案5 JSAF旗の制定及び意匠登録について承認を求める件、議案7 統合後におけるN協会支部の名称について承認を求める件、議案8 会員関係の対処の方針について承認を求める件が代議員会で審議決定になった旨報告した。日本ヨット界統合準備委員会は1999年に入り1月19日、2月9日開催し、じ後は2月26日を予定しているが、統合にあたっての条件確認実行をJYA側にさらに強く

土井悦会員(東京湾支部)から、JSAF移行後の事業計画に対する要望としてつぎの事項が提示された。
 (1) 技術委員会の中に、事故発生時に事故調査委員会の核となって海上保安庁と協力して原因究明に当たる、という項目を加える。
 (2) クルーミング委員会に水路部会を併し水路情報を流す。
 (3) 通信委員会に気象部会を併設し、警報の伝達、帆走委員や各艇の予報技の向上にあたる。外洋航行中の会員艇との交信を行う。
 (4) 法制委員会に被害遺族救済基金プール事業の検討。
 (5) 泊地対策委員会に漁港対策(漁港にジュニアセーリングクラブ、漁舟の帆走レースを漁港対抗でやるように仕向ける。
 他に質疑意見等なく、以上で審議を終了し、1999年度第1回総会(通常総会)を終えた。
 上記議事録に誤りのないことを証明し、署名押印する。
 平成11年2月21日
 議長 古川保夫
 署名人 浪川 宏
 署名人 山本憲生

第40回 鳥羽パールレースTシャツデザイン募集について 第40回鳥羽パールレース実行委員会

今年で40回を迎える、歴史ある鳥羽パールレースのTシャツのデザインを下記のとおり募集いたします。多数のご応募をお待ちしております。

【募集要項】

- 1 デザインの条件
 (1) ヨットまたはヨットレースに関するもの
 (特に外洋レースを強く意識したものを希望する。)
 (2) Tシャツ等に使用できるもの
 (3) 次の文字を入っていること
 ア 「第40回」 英文字の場合「40th」または「The40th」
 イ 「鳥羽パールレース」または「TOBA PEARLRACE」
 ウ 「'99」または「1999」
 エ 「日本セーリング連盟」または「JSAF」または「JAPAN SAILING FEDERATION」
 ただし、英文、和文、字体、書体および入れる位置は自由とする。
 2 デザインの提出方法
 (1) Tシャツの実寸法、着色図とする。
 (2) 他色も含めたカラーバリエーションの指定があれば併せて提出する。

- 3 提出先、提出の締切
 JSAF 外洋東海支部事務局まで
 平成11年5月28日(金) 必着
 4 選考
 応募作品は、第40回鳥羽パールレース実行委員会で選考する。
 5 賞
 (1) 特賞 1点 賞金2万円
 佳作 3点まで
 (2) 賞金総額 5万円
 6 版權、その他
 (1) 応募作品は返却しない。
 (2) 版權はJSAF 外洋東海支部に帰属する。
 (3) 入選作品には採用したデザインのTシャツを送付する。
 詳細についての問い合わせは、下記 JSAF 外洋東海支部事務局まで
 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-21 丸の内東桜ビル902号 ④ミヤコ内
 TEL 052-971-5835 FAX 052-971-5836

今回も観覧船乗船希望者を一般公募します。第13回 NTT エリカカップヨットレース in 蒲郡 観覧船乗船希望者の募集要項

【主旨】
 第13回NTTエリカカップヨットレース in 蒲郡の様を、直接海上で見ていただくために大型観覧船1隻をNTTのご厚意にてチャーターしました。観戦希望者を招待させ

て頂きます。船上では(社)日本外洋航海協会 東海支部の役員がレースの状況を解説します。
 【実施日時】 平成11年5月23日(日)10:00～13:00頃
 【募集人数】 500人(多数の場合抽選)
 【応募方法】 FAX、またはハガキにて、氏名、住所、電話番号、年齢、及び乗船希望者全員の氏名、年齢の上、ご応募ください。
 【応募先】 「NTTエリカカップ観覧船」係

FAX:0533(66)1188
 郵 送:〒443-0045 蒲郡市旭町17-1 蒲郡市観光課内 エリカ号保存会
 【応募締切】 5月9日(日)必着
 【発表】 抽選の上、ご本人にご連絡します。
 *観覧船乗船希望者募集に関する問い合わせ先 蒲郡市 観光課内 エリカ号保存会
 TEL 0533(66)1120

新組織財団法人日本セーリング連盟 (JSAF) 外洋本部事務局の所在のお知らせ

1999.3.31 をもちまして社団法人日本外洋帆走協会は解散。
財団法人日本ヨット協会と統合いたします。
これにともない、1999年4月1日から NORC 本部事務局は、
財団法人日本セーリング連盟 (JSAF) 外洋本部として下記
に事務局を移転いたします。

〒150-8050 渋谷区神南1-1-1 岸記念体育館内
(財) 日本セーリング連盟 (JSAF) 外洋本部
TEL 03-3481-2357 FAX 03-3481-0414

外洋本部 FAX サービスについても検討しております。

安全委員会連絡事項

平成10年度に定められたORC特別規定のカテゴリーの特例、カテゴリー3-B-Sはかねてからその存続を平成10年度中に検討する事とされておりましたが、周辺環境の整備など懸案事項を継続検討するために、暫定的に平成11年度中(2000年3月31日まで)存続させる事とします。

編集後記

かくて、いよいよ最終号の編集後記を書く羽目になりました。来るよ、来るよといいながら、実際にNORCのロゴの消滅するのを迎えて見るとつらいものがあります。最盛時には全ページカラーのオフショア誌が会員の手元に華やかに届けられ、舵誌と覇を競っていた(?)時期もあり、ある時は廃刊の瀬戸際に立たされて休刊をしていたり、我々の協会と同じように小誌自身も毀誉褒貶を味わってきました。

世界のヨット界もISAFとORCの関係など、激動の時期を迎えています。私たちの身の回りでのヨットも何やら様変わりが感じられます。学生ヨット部の延長にあって、縦のヒエラルキーに支えられてきた活動だけでは社会のヨット活動は支えられないという事、グランプリレースが一方の目標にあれば、他方でより草の根的な海洋レジャーとしてのスポーツヨットが大きな位置を占めてきています(実は昔からそうであったのだが、話題になりにくかった)。今や、プレジャーボートがお遊びとして軽く見られてきた時代から、生涯スポーツの一つとして、スポーツヨット自体が職業船と同じような人格を持つべきであるとの理解が社会の中に育とうとしています。そうした環境の中で小誌は両協会統合に従い、JYAの“Yacht”誌と合併します。これからは新組織JSAFの会報誌、24ページの“J-Sailing”誌として毎月皆様のお宅にお伺いいたします。Sailing for allをモットーにより幅の広いヨットスポーツの普及に貢献していきたいと思っております。皆様方のいっそうのご協力をお願いいたします。最後になりましたが、会員各位の今までのご協力とご理解に感謝を申し上げると共に、今後のご活躍をお祈り申し上げます。(N)